



育児休業明け、最初に訪問したのが、今号の「指導変革の軌跡」でご紹介した東京都・私立日本大学第三中学校・高校でした。2年ぶりの取材で緊張しましたが、探究推進委員の先生方の雰囲気がよく、終始、和気あいあいと楽しい取材でした。改革がうまく進んでいる学校は、風通しがよく、世代や分掌に関係なく本音が言い合える組織になっていると、取材の度に感じます。

写真は、探究推進委員会が校内研修のために作成したものです。取材中、先生方が端末を使う場面が何度かあるほど日常的にICTを活用している同校ですが、必要な時はアナログのものも用いる柔軟さも感じました。誰かのために作成したものは、どんなものでも温かみを感じます。「あなた」のために編集部が真心こめて製作した今号は、パレンタインデーの翌日、本日の発刊です。ぜひ、チョコレートと一緒にご賞味ください。(荻原)



VIEWnext
高校版は

電子ブックで閲覧できます

『VIEW next』高校版、『VIEW21』高校版2020年4月号以降の記事は、電子ブックでご覧いただけます。ウェブサイト『VIEW next ONLINE』でご確認ください。

HOME → 学校教育情報誌『VIEW next』 → 高校版バックナンバー

<https://view-next.benesse.jp/>

VIEWnext

高校版 2023年4月号

4月14日発刊

(予定)

『VIEW next』高校版は
年6回の発刊です

先生方からのご意見を
紹介します

Reader's VIEW

2022年12月号へのご意見

進路指導におけるICT活用は画期的

12月号の特集を読み、ICTをすぐに利用するためには、まずは環境整備が重要だと分かった。各教科による違いを含めた活用方法もよく理解できた。個人的には、書く力(数学、理科)が必要だと考えており、その力を引き出す手段として、ICTの活用方法が分かったような気がする。大阪府・私立関西学院千里国際中等部・高等部が、進路指導においてICTを活用していた方法は画期的だと思う。本校の教師も同様の取り組みをしており、効果が上がっている。愛媛県立今治東中等教育学校 大谷修一

端末を使う目的を生徒と共有することの大切さ

12月号の特集で紹介された広島県・私立修道中学校・修道高校の実践を読み、端末を使う目的を生徒としっかり共有することの大切さを再認識した。時には「○○○のために端末を活用する」のように使用目的を限定し、それ以外の使用については生徒に注意することがあると思う。そうした注意により、せっかくの端末を生かしきれていないのではと感じていた中でこの記事を読み、考えるきっかけとなった。

大阪府・私立羽衣学園中学校・高校 小竹孝弘

理数以外の教師も「情報」の指導にかかわれる可能性

本校では「情報I」を2年次で履修するため、3年次の受験対策としての課外授業をどのように実施するか悩んでいる。数学や理科の教師が担当するだろうという雰囲気はあるものの、情報免許を持っている教師が極めて少なく、解決の糸口が見えていない。12月号の「新課程レポート」の記事を読んで、理数以外の教師もかかわれる部分があることを知り、教科を超えて分野ごとに複数の教師でかかわることが可能であることが一つの方向性として見えた。実現の有無は別にして、選択肢が1つ増えたのはよかった。

茨城県 匿名希望

同じ学年主任としての思いに勇気づけられた

12月号の「輝く学年団を訪ねて」では、富山県立富山工業高校の高橋かずまさ一誠先生が「学年主任よりも担任をやりたいと悩んだ時期もありました」と述べていた。2学年主任である私にも、その思いがある。ただ、学年主任を任された以上は、高橋先生と同じく、担任が動きやすいように、負担を少しでも減らして生徒との時間を長く持つことができるようにと考えている。自分と同じ思いを持つ先生がいることに、とても勇気づけられた。

香川県・私立大手前丸亀中学・高校 高畑雅史

教師の「聴く」は、進路指導の神髄をつく指導

12月号の「クローズアップ! 就職指導」で紹介された、宮城県・石巻市立桜坂高校の進路指導部の重点テーマは、「聴く」であった。アウトプットの重要性が語られる中、教師の「聴く」が、自然に生徒のアウトプット、そして、自分との対話を引き出すことに改めて気づかされた。進路指導の神髄をつく指導だと感じた。岩手県・私立専修大学北上高校 川村俊彦